

大学院特別講義のご案内

講 師：日本大学生物資源科学部・獣医学科

中西 照幸 教授

題目：「魚類における CD8 陽性 T 細胞 による細胞傷害機構
について」

日 時：平成 27 年 7 月 30 日（木）17 時～18 時 30 分

場 所：疾患酵素学研究センター 1 階・会議室

魚類における細胞性免疫研究の優れたモデルとなっているクローンギンブナにおいて、ヘルパー及び細胞障害性 T 細胞のマーカーとして知られる CD4 及び CD8 α 鎖に対するモノクローナル抗体(mAb)の作製に魚類で初めて成功した。そこで、これらの mAb を用いて、CD8 陽性 T 細胞による抗原特異的細胞傷害と細胞障害機構及び移植片拒絶反応や移植片対宿主反応(GVHR)における T 細胞サブセットの動態について解析した。

I. ギンブナにおける CD8 陽性 T 細胞 による細胞傷害機構

魚類においても CD8 陽性 T 細胞が哺乳類の細胞傷害性 T リンパ球(CTL)と同様に抗原特異的細胞傷害活性を示すことが判った。

II. 鱗移植片拒絶反応における T 細胞サブセットの動態

ギンブナの CD4、CD8 α 、IgM 及びマクロファージ/好中球に対する mAb を用いて、同種移植片拒絶に伴う白血球の動態を解析した。

III. 移植片対宿主反応 GVHR における T 細胞サブセットの動態

3倍体クローンギンブナにキンギョを交配して4倍体雑種を作製し、3倍体ギンブナをドナー、4倍体雑種をレシピエントとして用い、魚類においてGVHRが存在することを明らかにした。

問合せ先：疾患酵素学研究センター・松本 満 (内 2565)